

# 国際民俗芸能フェスティバル

2009 2 | 18 水 国立劇場大劇場 昼公演 開演14:00  
夜公演 開演18:30



ベトナムの歌と踊り ベトナム民俗芸能団  
ベトナム社会主義共和国

東南アジアのベトナムは、日本の南西約4千キロの距離にある。国土は南北に細長く、長い歴史と伝統を持ち、変化にみちた文化を伝承している。ベトナムの無形文化遺産は、ユネスコ無形文化遺産保護条約の代表一覧表に載っている「ニャニャック、ベトナムの宮廷音楽」と中央高原における「ゴングの文化的空間」をはじめ多彩で、特色ある歌や踊りが伝承されている。このたび日本の民俗芸能との比較を視野に、ベトナムの人々が伝えてきた音楽劇や歌、舞踊を紹介する。音楽劇の代表的な演目「ティー・キン観音様」から「お寺に参るティー・マウ」という人気場面を披露する。バクニン地方の民謡「クアンホー」は、男女が恋の歌を歌い交わす歌垣の形式である。「サム」と総称される歌は町の辻や広場などで楽器を演奏しながら歌われる。舞踊「チャウ・バン」は宗教儀礼を元にしたもので、美人の神様、男の子の神様、少数民族の神様、と歌と踊りで表現する。



黒森神楽 黒森神楽保存会  
岩手県宮古市

東北地方には、かつて山伏、修験者たちが深く関わっていた神楽が数多く伝えられている。そのうち太平洋側の神楽を山伏神楽、日本海側の神楽を番楽という名で呼ぶことが多い。黒森神楽はその山伏神楽の代表的なものの一つで、岩手県宮古市の黒森神社を本拠地としている。ただ多くの神楽と違って、黒森神社の神霊を移したといわれる獅子頭の権現様を奉じて陸中沿岸を広く廻り、家々の庭先で祈禱の舞を舞い、夜は民家の座敷でさまざまな神楽を演じる「巡行(じゅんぎょう)」を中心としている。そのため黒森神社のある集落の人だけでなく、周辺の町村の神楽の才能のある人々が、神楽衆になっているので、芸はずばらしい。びっくりするほど美しい動きもあれば、大変にダイナミックな舞も多い。今回は信仰の上でも重要な「山の神舞」が演じられるが、一人舞ながら、その力強さとダイナミックな動きには、誰もが眼を見張るに違いない。ベトナムの一種の神楽のような「チャウ・バン」と比べて見ていただきたい。



かねざわ 金沢八幡宮掛け歌 金沢八幡宮伝統掛唄保存会  
秋田県横手市

古代には日本の各地で歌垣が行なわれた。歌垣は春か秋に、山とか野原、海辺、そして市がたつ所などに人々が集い、男女がこれかと思う相手に歌いかけ、相手もその気になればそれに歌い返して、恋が成り立ったりしたという行事である。この即興的に歌をやりとりする形を、日本人は長い間伝えてきたのだが、近代にはもうほとんど消滅したとされていた。ところが、この秋田県横手市の金沢(かねざわ)ではその伝統が生きていた。毎年9月14日の夜、小高い山の頂上にある八幡宮の境内に歌自慢が集まる。そこに集った人々から題材をもらって、舞台の上の二人が即興で歌詞を作り、「にかた節」のメロディで美しく歌う。その題材は「農家の嫁」「年金問題」などさまざま。大体七七五調が基になっているが、子どもから高齢の人まで勝抜き戦なので、終わるのは明け方になる。今回も親子対決が加わるのが楽しみである。ベトナムの「クアンホー」にも負けない歌合戦になるだろう。



つしまいづはら 対馬厳原の盆踊(曲の盆踊) 曲郷土芸能保存会  
長崎県対馬市

対馬は長崎県の北のはるか沖、韓国との中間にある大きな島である。海岸線がとてもこまかく入り組んでいて、島全体が山々なので、島の大部分は山の稜線がそのまま海に落ちている感じで、島のどこもがとても美しい。

厳原町はその対馬の最南端の町だが、今回演じられる盆踊の曲(まがり)集落は、その北部の漁村である。かつて厳原町には多くの集落に多様な盆踊があったが、今はごく少なくなった。その中でも曲の盆踊は、踊る姿勢や動き、そして衣装も優雅で、歌舞伎の元になった古歌舞伎踊のような感じがある。音楽もゆったりとした中世歌謡風の歌が、これまたゆったりとしているように思われるが、実はデリケートに伸び縮みする太鼓のリズムにのって歌われる。今回は「二本扇踊」と「柳踊」が演じられるが、「柳踊」の手に持つ柳の枝が、寄席芸の南京玉すだれのような仕掛けになっているのがおもしろい。ベトナムの音楽劇のように劇的な踊りではないが、初めての上京公演が楽しみである。

世界各地には貴重な無形の文化遺産が伝承されており、その保存・伝承は各国に共通する重要な課題である。文化庁では、我が国の民俗芸能と関連が深い芸能を各国から招き、国内の民俗芸能とともに公開して、その価値を広く周知する「国際民俗芸能フェスティバル」を平成8年度から実施し、民俗文化財の保存・伝承、文化の国際交流、文化財公開による地域振興等に寄与するよう努めている。

# 国際民俗芸能フェスティバル

主催 文化庁

後援 ベトナム社会主義共和国大使館

国立劇場(東京都千代田区隼町4-1)

■アクセス

地下鉄 半蔵門駅(半蔵門線)

1番出口より徒歩5分

地下鉄 永田町駅(有楽町線・半蔵門線南北線)

2番・4番出口より徒歩10分

都バス 都03(晴海埠頭一四谷駅)

三宅坂下車徒歩1分

